あ

E

(柱)と

る

(水銀社)

の血

し男子の

E

ま مح

と般標す

歳から三小に平均血脈に平均血脈に不均血脈

何なる原

+

五が均五

É

一十歳か

舉

あ家

つ中

て毒

腷

發行所 福島縣平 料 人行町 長橋町五 佐 藤 町 錢行 增 三十錢 興 報六 全

食はいが牛ののた酵を、よ肉點系がにより

・一学、恐怖、交接、秘結時を來たし、之より血液が脳室内 ・心勢、恐怖、交接、秘結時を來たし、之より血液が脳室内 が、過甚なる咳嗽及哄笑、高突然卒倒して鼾聲高く嗜眠狀態動、劇甚なる咳嗽及哄笑、高突然卒倒して鼾聲高く嗜眠狀態動、劇甚なる咳嗽及哄笑、高突然卒倒して鼾聲高く嗜眠狀態動、劇甚なる咳嗽及哄笑、高突然卒倒して鼾聲高く嗜眠狀態動、劇甚なる咳嗽及哄笑、高突然卒倒して鼾聲高く嗜眠狀態力。 が四、暴食、激怒、驚愕、哀脈瘤が血壓に耐へ得ずして破裂 が四、暴食、激怒、驚愕、哀脈瘤が血壓に耐へ得すして破裂

部回

五發

發た や作り

亨

である。こ

ら溢すのそれる競

酒

あ

る人

ては動脈

慎身脈起頭

長橋

五十六

場 所廣 指告 錢行

7 盛 添 V) 皇漢藥研究家 2 圈 師

0 を述べてみようとおり 長壽法を講すること 長壽法を講すること ほくこさは、とりも は、とりも 生 で壓 早老や早春 M. の關 壓 生係 過 に眠による そして 一ミリである。 歳から六十一 動によつて京 高くなる。 達五 Ħ. 葳 高くなり 夜時 は 軍 ま 不 既 に は 早 に から

來るからで、自然 ときの診査には血壓と ときの診査には加まる ときの診査には加まる ときの診査には加まる ときの診査には血壓 を表したがといる。 る。 の自い期 分命は にある。 にある。 にある。 にある。 にある。 には血管が には血管が には血管が には血管が ににいる。 には血管が ににいる。 にいる。 にい。 にいる。 ならい昇騰がになった。

スに

るさ誰

る。

觀

衛生思

T

あ

なるもので生た 頹即 廢ち ならぬっち

度に

質るを

細の々化は、 胞体見症

る若排の Azob法と長壽法でし、便通を規則正しく で、而して腸内 で、而して腸内 で、である。

かゞ

番想

で的

事を斷言す。

ゲ

あ

る

0

前

兆

鼻

る。頭 る意という。一点を表現している。 痛 眩 血 郷し、胸が常 倦怠を起し が興奮し易り 暈、 °足 舌頭、 耳 常に苦し、なくなる。 鳴り 眼 等が 瞼等 筋 起

豆炭、

専用の

遭

起し鼾を發するものとなる。 思考力が减退し意 は、変は蒼白となる。 は、変は蒼白となる。 は、変はが は、変はが は、変はが は、変し意

煉炭専用の火鉢(丸形角形 親切 火持ちは十 五 時間以上

錢

| 附屬品

付個

番

る排 一泄 種物 のが

るれ生がはず ず作よ作 る用り用組。生、 番組 恐織 ず大

まで

百三

起動 す脈 ベ硬 き化 0 生

血壓の低で起えたられ

 \mathcal{O}

內

話

七

Ħ.

番耶

原壓 は因が二も なを普回四

若少か血

こくても一つを末發にな

旅

動中好 脈風評 1 硬豫噎 ゲ 化防々た 1 錠 の腦る 專門 定價 定價 る元三二六二人圓圓圓圓圓

諸鼻

M

鼻

训

保有

證効

病

是豫 非防 **-**₩ 度ん **平** のと 町御し 用を勘さ 五三 むる 17

賣店 山五試且 野目 邊角 藥 局

能 並に中耳の蓄膿症、 -耳炎に神効の賞讃を受く肥厚性鼻炎、その他鼻骨灣曲症、肥厚性鼻炎、その他鼻骨灣曲症、

劑 販 實 元 局

磐城 振替口座仙臺(八八七六番)

貧血

普通アリ

○溫泉療法

是非

入浴の方に當場にてナポリ神液を無料サービス致します

な治師楽

٤

て神液を販賣して居ります

2

フレタ湯花ミ違ひ帝國實業獎勵會よりは名譽賞金牌を賜りたる權威ある

に勝る自然療法は有りません

の方心是非領国後下さ

M 保 健

to

變らす御霙浴を御願致 します

白熱的稱讚を受け一度入浴する程の人をして恍惚冥境に入る快心地ならし樂園ご云はる、温泉郷なり、其の名にふさわしい乳色ナポリ温泉一度世に伊太利はフアシズム發生の國、偉人ムツソリーニの居る國、ナポリは伊太 其の名にふさわしい乳色ナポリ温泉一度世に出るや至る。偉人ムツソリーニの居る國、ナポリは伊大利第一の都 むる理由なきに非ず 。處空前の

マチス、神經痛、 きめをこまやか た白粉の付きを 痔、胃腸病、婦人病、リウ 泟 のすら知さ寒 泉温リポナー乳



舖本

温泉の特長で有りますのないのが乳色ナポリのないのが乳色ナポリ

何程あた」ま

堂秘神藤伊京東

江命用御。切箕

番五八六話電

泉

Ħ.

洋 始 生 to

た

田 HJ (藤田女學校前

話

賣販品分部車動自

剤であります

繕修車動自

番〇九四話電 五 平

院病濟共城響

郎謙山石蜡 番一四六話電

町 南 平

電話六六八番 屋

立歩寄の り折下 南 町